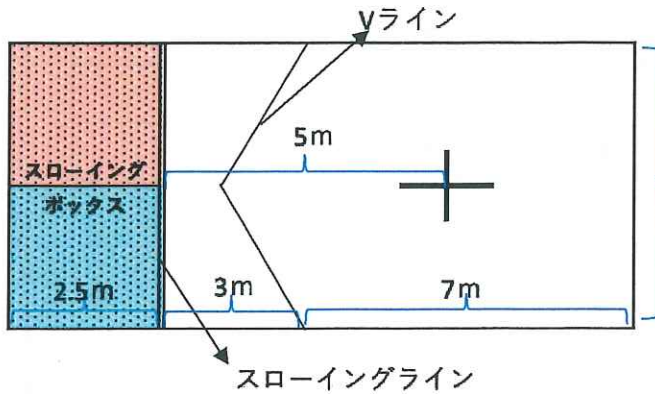


屋内活動

プログラム名	ポッチャ ※団体主導			
概要	<p>パラスポーツである「ポッチャ」に慣れ親しむ。</p> <p>ルールは簡易的かつ集団用に変更した青年の家ローカルルールで行う。</p>			
ねらい	<p>グループで協力してゲームに取り組み、団体内のふれあいを深めたり、積極性や協調性を養う。</p> <p>ゲームを安全かつ公正に行うことでルールを守り協力することの大切さを学ぶ。</p> <p>パラスポーツへの理解と関心を深める。</p>			
条件	対象	全年齢	人数（指導者人数）	～60人（5人以上）
	活動目安時間	90～120分	活動時期	通年
	活動場所	体育館・研修室2・他	費用	不要
	下見	要	活動名簿提出	不要
持ち物・準備	<p>（個人）飲料</p> <p>（団体）手指消毒スプレー（各コート1本以上）</p> <p>（貸出）ポッチャセット（5セットまで）（1セット当たり赤青各6球）</p>			
安全上の留意点 （対策方法）	<p>熱中症対策（休憩・水分補給）</p> <p>感染症対策（各ゲーム開始前に手指消毒）</p>			
活動内容（手順）				
<p>事前①指導者配置：活動指導（準備、進行）、巡視指導（活動中の研修生の補助や指導・助言）</p> <p>②グループ編成：1チーム1～6人程度の編成</p> <p>②下見の実施：活動エリア状況と安全把握</p> <p>③実施方法の決定：総当たり戦やトーナメント戦等の実施方法を定める（進行の不明点などは要相談）</p> <p>④研修生への事前指導：「概要」「ねらい」「留意点」等を指導、服装や持ち物の確認</p>				
<p>活動前①打合せ（活動10分前）：事務室前で所員と団体責任者・担当指導者にて実施</p> <p>確認事項：人数、健康状態、貸出備品</p> <p>備品をすべて持って活動場所へ移動</p> <p>②準備：研修室で実施の場合は机椅子をコート外に移動する（机のロックはフリーにして動かす）</p>				
<p>活動①活動場所へ移動（グループ毎に整列）</p> <p>②指導：指導者より</p> <p>ポッチャとは</p> <p>注意事項、進行方法の説明</p> <p>③活動開始：次ゲーム者はスローイングボックス付近で待機</p> <p>④確認事項：人数、健康状態</p> <p>⑤活動終了：ゲーム終了、振り返り（活動の感想を発表）</p> <p>⑥片付け（片付け担当）：備品の返却</p> <p>研修室で実施の場合は机椅子を元の位置に戻す（机のロックはフリーにして動かす）</p> <p>体育館で実施の場合はモップ掛けを行う</p>				

ポッチャ 各名称、ゲーム進行例

【コート各名称】

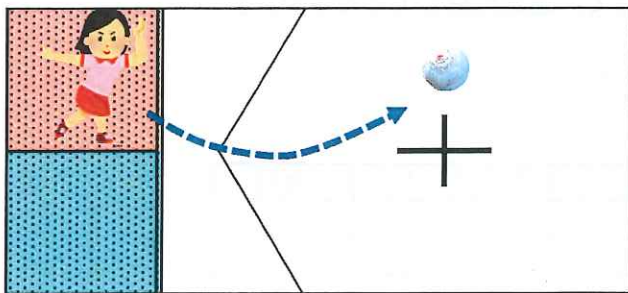


【用具各名称】



【ゲーム進行】 (例)

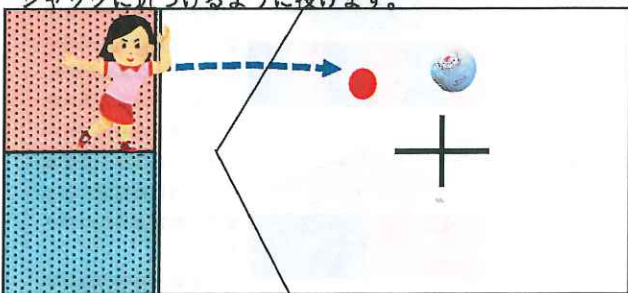
- じゃんけん等で先攻後攻を決定。先行はジャックを投球します。



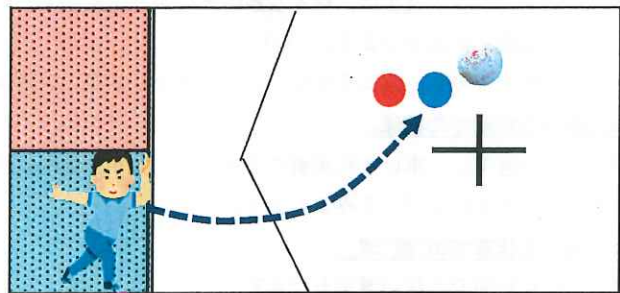
【ジャックボールの取り扱いについて】

- 最初のジャック投球時に、Vラインをはみ出したり、コート外に出た場合。
→投球権が後攻に映ります。
- 試合中にはじき出されてコート外に出た場合
→中央の「+」の位置に移動します。

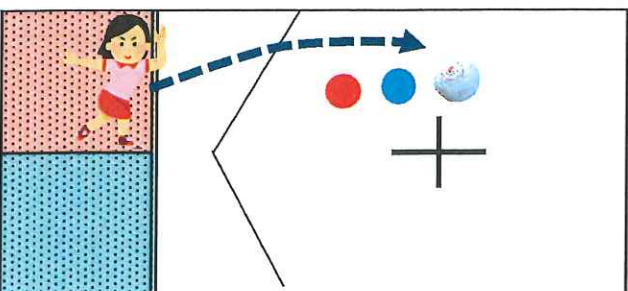
- 続いて自チームのカラーのボール (赤または青) をジャックに近づけるように投げます。



- 後攻が投げます。



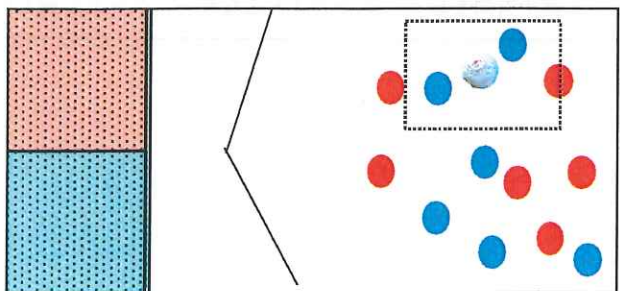
- 以降は、ジャックから遠い側のチームが投げます。



- お互いに6球投げたら終了です。

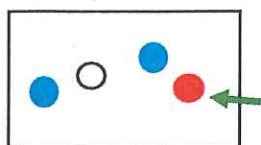
ジャックボールに近いチームが勝ち！

※先に他チームが6球投げ切ってしまった場合も残り球は投げます。

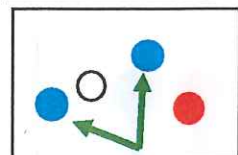


《 参考 》

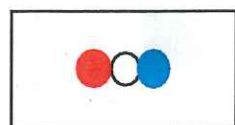
○得点計算による勝敗の決め方 (例)



相手チームのボールで最もジャックボールに近いボールを確認。



相手チームの最もジャックボールに近いボールより、近い自軍ボール分だけを得点加算。(この場合2点)



尚、このように差がない場合は、引き分けにして両チーム1点加算する。

ゲームを繰り返し、総合得点を競います。

	1	2	3	4	計
チームみかん	0				
チーム富士	2				

○活動人数について【あくまで目安です。研修生の人数に応じて、適宜変更してください。】

- ・1チーム6人でゲームを行います。
- ・各コート指導者1名配置してください。(指導者と審判員の兼用可)
- ・各コートに、審判員1名を配置してください。(研修生可)

	コート1	コート2	コート3	コート4	コート5	合計
参加者	12	12	12	12	12	60
審判員	1	1	1	1	1	5
指導者	1	1	1	1	1	5

○投球のルールについて (例)

パラリンピックスポーツ選手は、様々な条件下の中、可能な限りの創意工夫を凝らして、競技に挑んでいます。いろいろな条件下でのゲームにチャレンジしてみましょう。以下は一例です。

①イスに座った状態での投球。

→ポッチャの選手は、車いす利用者の方も少なくありません。座った状態での投球にチャレンジしてみましょう。

②イスに座った状態での”蹴”球。

→手が自由に利用できない選手もいます。ボールを蹴って、チャレンジしてみましょう。

③ブラインドポッチャ

→視覚障害をもつ選手もいます。目隠しし、チームメンバーが手をたたいたり、言葉で方向を伝える形でガイドしながら、ゲームに臨んでみましょう。

【スローイングボックスの使用ルール】



スローイングボックスにも使用ルールがあります。①は、公式ルールに近い形で、ボックスを6等分し、各チームは自軍の色のボックスをそれぞれ一回ずつしかつかえません。



②は、自軍の投げられる場所が指定されたパターンです。それぞれ、投球の位置や、投げる順番に戦略が生まれます。



③は指定がありません。学年や、ゲームの趣旨に応じて、自由にルール設定しましょう。